

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究

研究分担者：釜江（繁信） 和恵 （公益財団法人浅香山病院・精神科, 認知症疾患医療センター・精神科部長, 認知症疾患医療センター長）

研究協力者：島 宏和 林 竜太 濱田麻祐子 勝田紳太郎 松原大輝 中島華菜 山中 涼
佐々木陸 小玉桜南 新城美紀 三好豊子 山本朝美
（公益財団法人浅香山病院）

研究要旨：認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの導入

A. 研究目的

本研究では自宅写真を撮ってもらい、回収した写真から生活を評価する非訪問型の生活評価システム「Photo Assessment(以下、PA)」、患者にあるパソコンやタブレットを Zoom などのオンライン会議システムで病院とつなぎ、画面越しに生活指導を行う「Online Management(以下、O-MGT)」の標準化が目的であるが、これまで開発を行ってきた機関は大学病院である。そのため 2023 年度は一般病院の外来認知症患者・介護家族に導入するにあたり、導入を阻害する可能性のある要因を検討した。それによりこれまでに訪問看護・訪問リハビリの経験のない患者・家族に PA/O-MGT を実施する場合には、導入時によりその効果も含めより丁寧な説明が必要であること、介護者が高齢である場合にはオンライン会議システムの使用に何らかの支援が必要であることがわかった。そこで今年度それらの阻害要因の少ない対象者を選定し実際の加入を開始した。

B. 研究方法

当科外来に 2023 年 12 月に当科物忘れ外来通院したアルツハイマー病患者で、訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験の

ある患者（CDR0.5-CDR1）、あるいは日常的に家族が zoom 等のオンライン会議システムに慣れている者 8 名のうち同意の得られた 5 名に介入を行うこととした。

（倫理面への配慮）

本研究は外来診療の一環として行われ、当院の倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

5 名から同意が得られた。5 名の内訳は、5 名全員が家族がオンライン会議システムに慣れている者であった。訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験のある者は 1 名であった。その後順次 O-MGT の実施を開始した。介入が終了した 3 名はいずれも主介護者が子供や子供の配偶者か、主介護者が配偶者であってもオンラインシステムのサポートをする子供が平日日中に対応可能な者であった。同意が得られていた 2 名については主介護者は配偶者であるが、オンラインシステムの操作を行うのが日中働いている子供であったため、平日日中に調査のための時間を取ることが困難であり、調査期間中に実施が終了しなかった。

介入が終了した 3 例は介入に対して、本人・介護者ともに好意的な感想を持ってお

り、今後の進行期に備える準備になったと捉えていた。

D. 考察

まだ現時点では認知症を発症する患者および配偶者世代単独ではオンラインシステムを用いての O-MGT) の導入は難しく、子供世代の援助が必要であると考えられた。

E. 結論

O-MGT を円滑に導入するには既に家族がオンライン会議システムの使用慣れている者に実施導入が行いやすいが、そのような介護家族は就労年齢者であることが多く、平日の日中に介入時間を確保することに工夫が必要であると考えられた。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ishimaru D, Suzuki M, Katsuki K, Nagata Y, Hirakawa N, Taomoto D, Satake Y, Yoshiyama K, Shigenobu K, Kanemoto H, Ikeda M. Characteristics of the Japanese version of the Alzheimer's Disease Cooperative Study Scale for Activities of Daily Living in Mild Cognitive Impairment (ADCS-MCI-ADL-J): preliminary data. Psychogeriatrics.2025 Jan;25(1): e13234. doi: 10.1111/psyg.13234.
2. Wenping Mo, Xiaoji Liu, Miyae Yamakawa, Eriko Koujiya, Yasushi Takeya, Kazue Shigenobu, Hiroyoshi Adachi, Manabu Ikeda. Prevalence of sleep disturbances in people with mild cognitive impairment: A systematic review and meta-analysis. Psychiatry

research. 2024 Sep;339;116067. doi: 10.1016/j.psychres.2024.116067.

3. Daiki Taomoto, Shunsuke Sato, Hideki Kanemoto, Maki Suzuki, Natsuho Hirakawa, Akihiro Takasaki, Miu Akimoto, Yuto Satake, Fuyuki Koizumi, Kenji Yoshiyama, Rei Takahashi, Kazue Shigenobu, Mamoru Hashimoto, Toji Miyagawa, Bradley Boeve, David Knopman, Etsuro Mori, Manabu Ikeda. Psychogeriatrics. Volume24, Issue2 March 2024.Pages 281-294.

2. 学会発表

(シンポジウム)

1. 繁信和恵. 言語障害を抱える患者とのコミュニケーションを支える～関わり方の工夫とデバイスの活用～ 第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会, 神戸, 2024 年 6 月 14 日
2. 繁信和恵. 認知症疾患における諸症状を高次機能障害の立場から考える 幻覚・妄想～幻覚・妄想への対応 第 48 回日本高次脳機能学会学術総会, 東京, 2024 年 11 月 8 日
3. 繁信和恵. 若年性認知症の診断・治療・支援 第 43 回日本認知症学会, 福島, 2024 年 11 月 22 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし